

---

# 無重力な犯罪者達

つみき

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無重力な犯罪者達

### 【Nコード】

N2142J

### 【作者名】

つみき

### 【あらすじ】

何故か通帳に多額の金が振り込まれている。  
そんな非日常的な出来事が起こる時、どこかで  
彼女は笑っているのだろうか。

無重力な冬の朝から始まる（前書き）

続き物です。

## 無重力な冬の朝から始まる

たとえば、朝早く起きすぎてしまった。

まだ早朝の5時である。そんなときはコンビニへ行く。ちゃんと鏡を見て、寝癖を直してからだ。

ただ、服装はパジャマだったり、あべこべなんだけど。

「あーあ、また・・・だ・・・」

桑原千佳は呟いた。彼女は高校1年生で、一人暮らしをしている。

2年前に死んだ両親の写真は、彼女の手帳の中に挟まっている。

一人暮らしを始めた当初は悲しくてしょうがなかった彼女も

生活が落ち着いてくるにつれて金銭面での悩みに追われていたのだがそんなときにおかしな事が起こり始めたのだ。

自分の通帳に1ヶ月に2回、膨大な金額が振り込まれているのだ。

バイトもしていない彼女の通帳に、何故だか、彼女にはわからない。

その多額な金額に最初は機械の故障かと疑った。機械の故障ではないという事は最近はつきりとわかる様になった。休みなく1ヶ月ごとに振り込まれるその多額の金額はいつも一定である上にもう4回目になる。

「・・・なんでだろう・・・」

コンビニの端にあるATMの液晶に呟いてみた。3ヶ月前不思議で

通帳を

いれてみたら『振込み ユニオ』と通帳に出た。

ユニオ。苗字なのかも名前なのかわからないし、そんな知り合いはいない。

千佳はコンビニを出る。今月もきちんとしていた。2回目の振込み日。

誰かが自分を試しているのかもしれない、とはじめは疑って使えなかったこの

お金も今はなんの迷いもなく引き出しつかっている自分には少し吃驚している。

どうしようもないのだ、と自分を庇う。お金が無いと、生きていけないのは

誰もが知っている事実じゃないか、と。

「大家さん、遅くなつてすいません」

千佳は茶色い封筒に入った9万円を大家に渡した。朗らかな顔をした大家はゆっくりと

頷いて「確かに受け取りました」とだけ言って扉を閉めた。今日入ったお金の最初の使い道は家賃

だった。3部屋しかない狭い家で9万円もするのだが、この町の駅の近くにある家にしては

安いほうだと思う。というか、一応一軒家だし。ただ一軒家というよりは平屋という言葉

の方がしっくりくる。

大家のいかにも裕福そうな家を後にして、私は自分の平屋に帰る。

玄関には自分のスニーカー  
とブーツがひとつずつしかない。

「・・・もう、6時か」

コンビニのATMで今日も1時間弱迷ってしまった。

このお金はおろすべきなのだろうか、と。

\$

清原美緒はポリシーを持っている。金に関してだ。

泥棒をする人間は最悪だ。貧乏な人からも裕福な人からも金を盗む。金は裕福な人間から取らなければいけない。しかし自分だけが甘い蜜を

吸うなんて、言語道断である。

じゃあ、銀行強盗はどうだろう。銀行からとるお金は唯一、誰の金でもない金であり  
貧乏な人間にも迷惑をかけない。しかし、やり方が難しい。自分が捕まってしまうば

もともとも無い。と言って武器を手にして銀行員を威したりするのは、銀行員たちが  
可哀想な気がする。

じゃあ、これはどうだろう。世界から、ある特定の条件をクリアする人物を毎月二人見つけ出す。その人物の通帳から少しばかり金を拝借し、貧乏な者へ分け与えるのだ。名案だと我ながら思うが、実行するには少しばかり時間が必要である。

これを考えたのは清原美緒が小学校1年生の時であり、彼女が死んだ1週間後である。

死んだ人間は、生きている人間より冴えている。そこから話は始まる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2142j/>

---

無重力な犯罪者達

2010年12月30日00時46分発行